笹渕 賢吾議員

町民の未来を考える会アンケート9割 学校建設反対

問 町民の未来を考える会(盾の会)が小中学校建設に関して自主的にアンケートをされて、その集計を町に提出されているとのことだが、結果について町長、教育長の見解を伺う。

答 (町長)町民の未来を考える会から執行部へ「新校舎建設事業計画に係る請願書」が提出され、さらに議会に対し請願が提出されている。議会の皆さんがどう取り扱い、審議されるのかをふまえきちんと答えを出していきたい。

問 このアンケート調査は菊水地区を中心に2、300名の方を無作為に抽出して行われた。その回答者数は1、290名となっている。アンケートの設問の一つ目は「番城グラウンドをつぶし、36億円の事業費を投入して、学校建設計画があることを町の情報で知っていましたか」の問に「知っていた」という人は604名で52%、「知らなかった」は567名で48%。又、「番城グラウンドをつぶすことに賛成ですか」の問に「賛成である」は66名、6%、「反対である」は1、049名、94%に上っている。「学校教育債、借金の残債が8億円あるなかで、数十億円もの借金をして新校舎を建設する必要があると思いますか」の問に「必要である」は9%、「必要でない」は91%になっている。「3、11東日本大震災で何十校もの学校を消失している小中高校がある東北地方のことを思うと、同じ日本人ならまだまだ15年から20年使える耐用年数を残す校舎を廃校し、新しい校舎を建設することをどう思われますか」の問に、「建設してよい」は98名、8%、「建設しなくてよい」は1、080名、92%となっており、この結果は重く受け止めるべきで東日本大震災が起きて実態を知るにつれ町民は予算がどういうふうに使われているか真剣に考えていると思う。町長の見解を。

番城グラウンド

答 (町長)町民の声は最も大切であるが、執行部は今日に至るまで多くの委員会、多くの組織の中で諮問し、「こうあるべき」という具申をいただいている。町民の心配している声は声として結果的には後でご理解いただくように進めさせていただきたい。集落や団体ごとに聞きたいことがあれば、出前講座を行う。

問 アンケートで90%以上の人が建設反対の結果が出ているが、こういった声を聞かないで建設を進めると町の教育理念である「地域と共に子どもたちを育てていく」という、町と住民の関係が崩れていくと思う。教育長は住民との対話をどう考えているか。

答 (教育長)これまで和水町の学校規模適正化等審議会でアンケートをとり、検討会、推進委員会等の意見を聞いてその基本方針ができ、議会でも承認を得たと思っている。協会でも承認をいただいたので粛々と進めていくのが私達の仕事である。

町体育協会の要望は何か

問 町体育協会からグラウンドに学校を建設する問題で意見が出たということだが、その内容と対応について伺う。

答 (学校教育課長)300メートルトラックは体育協会の要望ではない。町民に支障のないように第二グラウンドを造成し、学校施設共用型とする。体育協会にはその利用方法やグラウンドの材質をどうするか、話していきたい。

町長は雇用問題の把握を!

問 今年度町内の高校新卒者は、正職員として採用された就職率はどうなっているか。

答 (経済課長)町内のデータはどこを探してもない。県内の状況は97・1%、玉名管内は99・4%で町内も大体同等と思う。

問 雇用問題は深刻になっており、全国的には青年と女性は二人に一人しか正規雇用者はいないという状況でその8割が年200万円以下の所得しかない。青年世代の雇用は結婚、出産、子育てに影響する。雇用状況を町がきちんと調査し把握すべきだ。町内企業に海外への工場移転をやめて町内工場の縮小を控えるよう要請を。

答 (町長)会社の経営は厳しいと理解している。ご指摘のことは何らかの形で今後検討させていただきたい。

松村 慶次議員

学校統廃合問題について

問 学校建設の土地取得状況について伺う。

答 (町長)学校用地については、菊水地域、三加和地域とも、地権者の方々のご理解、ご協力をいただき、関係区長様のご支援により、事業計画地の用地確保が完了した。学校建設に関しては、全員協議会での説明、報告、なごみ広報別冊3号での説明によって、その計画の通りしっかりと進めてまいりたいと思う。

(教育課長)菊水区域については、全取得面積山林一部水田、7万56㎡、金額7、041万4、500円、81筆、三加和地域、水田面積7、569㎡、金額2、081万4、750円、筆数5筆である。

問 番場グラウンド周辺の土地の評価額を不動産鑑定士に依頼されたと思う、評価額は幾らだったのか伺う。

答 (教育課長)不動産鑑定は1、000㎡50万円と聞いている。

問 土地取得はスムーズに出来たのか伺う。

答 (教育課長)行政としては十分対応したつもりだが、これまでの対応や説明が十分でなく、その為不審とか、非常に悪かった面も有り、難航した部分も有った。

問 46億円と大金を投じて、学校建設計画を進めておられるが、町民の皆様は、まだ不安がっておられると思うので、町行政としては、誠意を持って十分説明をしていただくようにお願いする。それから、一貫教育をした場合のメリット、デメリットを伺う。

答 (教育長)複式学級を早く解消させて、集団の中でたくましく育てようじゃないか、それが町民の願いだと、とらえている。今進めている小学校の統合が、建設に向かったと思う。一貫教育をするよさと云うのは「中一ギャップ」と云う言葉がある。小学校から中学校に上がる折の、いろいろな問題、教えの問題、中身の問題、なじめない、いろいろな問題で不登校等が出ているのも事実だ。小学校の先生は、全教科を殆どやられる。中学校では専門家から習う教科担任制みたいな形の授業が出来る。

問 複式学級の解消が町民の皆様の願いだと思うが、新たに学校建設をしなくては、学校統合は出来ないのか伺う。

答 (教育長)複式学級とは、物理的に45分授業の中で、一人の先生が、2つの学年を担任するわけだから、1学年22分30秒、その間和水町では学習補助員が、自習ではなく、担任の先生の指示に基づいて指導をしている。一日も早い統合校を造って、複式学級の解消を図ってやるのが、私達教育委員会の仕事である。

問 番場グラウンドは、学校教育と社会教育施設との共用という形だが、管理面はどうなるのか伺う。

答 (教育長)教育用という形に成って、学校施設の中の一つと言う考えなので、学校の方で管理をする。

問 和水町立小中学校統合校開校準備委員会の進捗状況について伺う。

答 (教育長)広報なごみ別冊3号で内容等知らせている。6月に小中学校統廃合開校準備委員会を設置し、菊水区域25人、三加和区域21人で、7月26日、第1回の委員会を開催している。各委員のご氏名は広報なごみ別冊号で知らせている。委員さん方の意見を聞きながら、そこで十分審議いただきよりよい結論を生み出す運営、組織をつくっていく。

道路網の整備について

問 道路網の整備について地域の発展は道路アクセスだと思う。今後の道路整備・改良計画について伺う。

答 (町長)幹線道路の整備については、九州縦貫自動車道、新幹線など、高速交通基盤の活用、本町内外の円滑な交流、物流が促進される為、国道、県道のアクセス道路が求められると思う。生活道路の整備については、既存の道路改良、拡幅などを進め、幹線道路へのアクセス機能を強化する為、計画的な整備を求める、町道については、和水町まちづくり総合計画にのっとり、整備を一つ一つ優先順位を考え、安全で安心で利用できる道路づくりに向けて計画的に整備を実施していく。

問 県道の道路整備、除草について伺う。

答 (建設課長)県道については、和水町管内に、二社が委託契約されて維持管理されているが、緊急的、早急に必要な時は、地域振興局の土木部へ要望を行っている。除草作業については、年間2回程度計画されている。

県道大牟田・植木線 道路改良